

# 1. 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2970200388		
法人名	有限会社サン企画コーポレーション		
事業所名	グループホームゆかりの里苑		
所在地	大和高田市松塚850-3		
自己評価作成日	平成30年06月15日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/29/index.php?action_kouyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2970200388-00&amp;PrefCd=29&amp;Versi">www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/29/index.php?action_kouyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2970200388-00&amp;PrefCd=29&amp;Versi</a>
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人Nネット
所在地	奈良県奈良市登大路町36番地大和ビル3F
訪問調査日	平成30年7月4日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

食事はすべて手作りです。調理の下準備を居者さんにお手伝いいただきます。時には煮物の味見もさせていただきます。料理中の匂い等で話にはながさきます。梅ジャム、イチゴジャム、寒天でゼリーを作ります。おやつに召し上がって頂いてます。御餅も喉に痞えないよう、卵の花(おから)ともちこめで御餅をつきます。学習療法を取り入れております。国語・算数・理科・社会・音楽・家庭科・保健・体育、全教科があります。入居の皆さんは楽しんで参加いただいています。食事と学習療法に力を注いでおります。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

事業所は、近鉄の駅から歩いて5分の古い住宅地の中にある。建物は、鉄骨造りの2階建てで、2階への階段にはイス式階段昇降機が設置されている。食事は、管理者が菜園でつくる野菜を食材に取り入れ、利用者の希望を聞きながら職員がすべて手作りにしている。職員も一緒に同じ料理を食べている。大人のドリルを使った回想療法に取り組み、利用者が楽しみながら認知症の改善につなげている。利用者に寄り添い、利用者一人ひとりを大切に、とても家庭的な雰囲気をもつ事業所である。

**・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

セル内の改行は、(Alt+ ) + (Enter+ )です。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念が玄関入り口と、ロッカー室にも掲示されていて共有している。仕事に就くときに確認して頂くようしている。	「家庭的な環境のもと地域住民との交流を大切にする」ことを運営理念に掲げ、玄関入り口やスタッフルームに掲示している。また、職員で考えた介護に対する心構えの言葉も、職員が目につくところに掲示している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域での催しには事業所として参加していて、入居者さんとのふれあいがある。子供会の行事では施設が休憩場所になったり、訪問してくれる時もある。	自治会に加入し、運営推進会議には、自治会総代、副総代が参加している。事業所前のスペースが、秋祭りのだんじりの休憩所になっており、利用者も楽しみにしている。また、地域のボランティアや子供たちの訪問があり地域との交流は密に行われている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に一度の運営推進会議やオレンジカフェ、ボランティアさんが傾聴で施設にお見えいただいたときなどにお話させていただいている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、自治会の総代・副総代・民生委員・老人会・松塚町ボランティア代表・職員代表の方がたに出席いただき色々なご意見を頂き、前向きに取り組んでいます。	運営推進会議には、市の担当課職員、地域包括支援センター職員、自治会の総代、副総代、老人会会長、民生委員、地域ボランティアなどが参加し、2ヶ月に1回開催している。事業所の報告だけでなく、地域の福祉課題や防災対策なども話し合っている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議では地域包括支援センター・介護保険課からもご参加いただき、色々なご意見を頂きながら、より良い介護を目指しております。	市の介護保険課職員が参加する運営推進会議において、情報交換を行っている。市が主催する研修会に職員が参加している。現在、生活保護の利用者を受け入れており、担当職員と連携をとり支援している。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	今までも取り組んできておりますが、4月からは職員会議の案件にもいれております。	身体拘束をしないケアについて、職員会議でとり上げ具体的な例を挙げて確認し、周知している。外出願望の強い方には、職員が付き添って外出し、拘束感を和らげている。契約書や運営規定に身体拘束をしないケアについて明文化されていない。	契約書や運営規定に、身体拘束をしないケアや虐待の防止に関する指針などを明文化し、事業所の姿勢を明確にする事が望まれる。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	認知症ケア専門士の研修や、施設内での会議でも取り上げられ、学ぶ機会をもうけております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法テラス、成年後見を実際活用されておられる方が何人居られます。活用できますよう支援しております。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や退所後も、ご相談いただけるよ説明させて頂きご理解いただいております。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来苑時必ずご本人の様子や施設の報告等させて頂いており、ご意見等も聞かせて頂いています。毎日の申し送りや会議にも取り上げる事もある。	日々の生活の中で、利用者から要望等を聴いている。家族の面会時に、利用者の近況を報告するとともに、家族から意見や要望等を伺っている。成年後見制度を利用している方も多く、成年後見人の方からも意見を伺っている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議では職員一人ひとりに思いや提案を話して頂けるよう時間をとっている。	毎月の職員会議を全員が積極的に発言できる場として、利用者にとって良い提案を汲み上げ、直ちにサービスに反映させる取組みを行っている。管理者が1対1で職員と話す機会を設け、職員の思いの把握に努めている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	それぞれの持てる力を出して頂けるよう配置にも配慮し、仕事にも意欲的に取り組んでいただけるよう給与面でも微力ながら取り組んでいる。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の参加費、交通費など個人負担にならないよう考慮し、シフト面でも調整と当日の給料面も事業所として配慮している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や行事など交流の場として参加していただいている。同系列の職員が遊びに来る時もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族様からの生活歴、既往歴、趣味等情報提供して頂きご本人様との信頼関係を築く事を職員一同取り組んでいます。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様には入所時に色々なお話を聞かせて頂き、一緒に対応できるような関係作りに努めております。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時にはタイムテーブルを必ず記録し、その中から問題点を見出し、対応策を検討している。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族として接しています。お互いに共同生活が出来る様な関係を築いております。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様のお力を頂きながら、施設と共にご本人様を支えていただけるよう、入所時にお話させて頂きご理解いただいています。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時には失礼の無い様、またおやつの時間になれば、一緒にティタイムを楽しんでいただけるよう配慮をしています。	利用者の家族だけでなく、友人の訪問もある。家族と外出し、馴染みの美容院に行ったり外食を楽しむ方もいる。正月に自宅に帰ったり、家族と旅行される方など馴染みの関係を保つ支援を行っている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の会う方との会話、レク、日常生活のお手伝い等その時の状態を考慮しながら座って頂く場所も検討している。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	遠慮なくご相談頂けるような声掛けは何時もしています。そして必要とされておられる時には即対応しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お気持ちに添えるような取り組みをしております。困難な時はが職員全員で検討しながら対応策を講じております。	利用開始時に、本人や家族から事業所での暮らし方の希望を聴いている。日々の生活の中で、職員は利用者寄り添い、思いや食べたいものなどの把握に努めている。しかし、利用者の思いや意向の把握を職員が共有するための記録様式が整備されていない。	フェイスシートや情報提供シートだけでなく、利用者の生活歴や趣味特技、生きがいなどを記録し情報を共有できるアセスメント様式を整備し、利用者の更なる思いの把握につなげてほしい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時には、必ずご本人様と面接し、ご家族様からも色々お聞きしながら把握につとめています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	これまでの生活歴や生活リズムを大切にしながら、これからも過ごして頂けるよう支援いたしております。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員と共にサービス内容を検討、状況把握しながら適切なサービスが提供されているか確認している。	利用者個々の生活状況を把握し、職員が話し合っって介護計画を作成しており、半年に1回更新を行なっている。介護計画は、利用者の生活上の課題や問題点が中心になっている。介護計画のモニタリング結果や評価などの記録があれば、なお良いと思われる。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録には、体調や様子の変化には、どの職員も直ぐに気づけるよう赤ペンにて記録し、職員全員で共有し対応している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新たなニーズにより支援の見直しや、意見、苦情にも即対応出来る様取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日舞・傾聴・リハビリ体操など、多くのボランティアさんのご協力をいただいています。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様のご協力を頂きながら、ご本人様に適切な医療や薬局にもお世話になっております。	事業所の内科の協力医が月2回、訪問診療を行なっている。看護師も訪問し健康管理を行っている。また、歯科医が月2回訪問し、口腔ケアを行なっている。利用者個々のかかりつけ医への受診は、家族が付き添って行っている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	病院・薬局・往診歯科等、緊急時即対応して頂けるよう提携している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者とは特に密な情報提供や、相談が出来る様つとめております。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に説明させて頂いている。またその時々段階でもご家族や医師、関係いただく方がたと相談しながら取り組んでいる。	利用開始時に、ターミナルケアについて事業所の指針などを本人や家族に説明しているが、その指針が明文化されていない。本人が重度化した時点で、利用者や家族と話し合い意向を聴き、協力医や訪問看護師と連携して看取りのケアを行っている。事業所内で行った看取りの事例が多い。	終末期をどこで、どのように迎えるのかは利用者や家族にとって強い関心事でもあり、重度化や終末期に向けた事業所の指針を明文化することが望まれる。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時の対応は、看護師や職員間で対応できる。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	通報・初期消火・避難等の訓練は定期的におこなっている。地域の自主防災会にも緊急要請出来る様になっている。	2階に避難用の外階段が設置されている。昼間と夜間を想定して、通報や避難の訓練を年2回実施している。利用者も参加して、避難にかかる時間も測定している。飲料水や食料の備蓄を行っている。自治会とも防災について話し合いを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	失礼の無い様、言動に注意をしながら対応している。	利用者一人ひとりの人格や誇りを尊重し、家庭的な雰囲気の中にも丁寧な声掛けを心がけている。傾聴ボランティアが定期的に訪問し、話し相手になっている。大人のドリルによる回想法を行なって、認知症の改善に取り組んでいる。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事は特にご希望に添えるよう務めております。笑顔に繋がります。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や気分によって個別に対応しています。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族さんがお持ちいただいた衣類の中から、ご本人の希望に添えるよう支援しています。また施設の衣類も提供する事もあります。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材のした準備や、食後の片付けをお手伝いしていただくことが多い。	管理者が菜園でつくる野菜を食材とし、利用者の希望を聴きながら、食事はすべて職員が手作りしている。利用者はできる範囲で準備や片付けを職員と一緒にしている。職員も一緒に同じものを食べて、とても家庭的な雰囲気がある。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の栄養面、水分摂取量、排便は勿論、必要に応じて排尿量のチェックもしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア、就寝時の義歯対応など清潔保持と、健康保持の為おこなっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄リズムをハークし、前誘導に繋がる声掛けを心がけています。布パンツの方は今の状況を一日でも長く、そしてパットなども使用量が少なくなるよう取り組んでいます。	利用者個々の排泄パターンを把握し、タイミング良い声掛けでトイレ誘導を行い、なるべく布パンツで快適に過ごせるよう支援している。利用者の無理のないよう状況に応じて、ポータブルトイレやパットやリハビリパンツなども併用している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自家製のヨーグルトに果物を混ぜます。りんごの摩り下ろしやバナナなど。寒天を使ったゼリーなど提供しております。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	湯船に長く浸かっていたい方などは、一番最後にお入りいただきゆっくり楽しんでいただいています。	浴槽は、洋風の家庭用浴槽である。入浴日を、週2回設け、その日に全員入ることができるようにしている。利用者の希望に沿って、入浴の時間や順番を配慮している。シャワー浴や足湯も随時行っている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人お一人の体調に合わせ、お昼寝タイムや足浴など行っている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員と看護師とで服薬管理を行っています。副作用などもハークして居る、時には医師に確認しながら用量の変更もする。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お部屋の片付けや掃除、洗濯物干しや洗濯たたみなど職員も交え歌を歌いながら、お話をしながら、楽しくこなして頂いている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日に数回帰宅願望あり、階段を下りてこれ外へ出て行かれる。階段や外へ行かれる時には必ず職員が付き添い同行している。階段の上り下りは日に3回程、外へ行かれるのも2回ほど続いている。	天気の良い日は、近くの神社に散歩している。花見のシーズンには、近所の川の堤に桜を見に行ったり、車で公園に花見に出かけたりしている。特に帰宅願望の強い方は、毎日職員と一緒に散歩に出かけている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の持つ事や使う事大切さは、職員全員理解しているが、今現在では特に支援をしている方はいない。以前はお酒やお菓子を一緒に買い物に出かけていた。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様のご希望に添った対応をしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室の温度、採光の調節、季節が感じられるような作品等一緒に楽しみながら作って頂いている。	西側の窓には、ゴーヤのグリーンカーテンが施されている。回廊式の廊下の周りに居室があり、廊下にソファが置かれている。2階へ上がる階段には、椅子式昇降機が設置されている。玄関前の小屋に喫茶コーナーが設けてあり、外出して喫茶店に行った気分を味わうことができる。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その時その時が楽しめるよう皆さんと一緒のときや、また一人で穏やかに過ごしていただける場所もある。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内の配置はご家族様がされることが多いですが、職員とご本人様とでさせて頂く時もある。	居室内は、ベッドの他に衣装ケースや洋服掛け、テレビなどが置かれているが、比較的シンプルである。利用者が居室で居心地よく暮らせるよう、もう少し馴染みの品物があってもよいと思われる。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレに近い部屋、職員が何時も見守りの出来るお部屋、ベットやトイレの位置などその方の安全や自立に向けて対応している。		